

令和8年度 旭川市農業センター試験課題等一覧
 <農業センターほ場試験>

No.	課題名	年度	作型			試験の概要	関係先等
			播種	定植	調査・収穫		
1	夏秋ナスの養液栽培試験	R5～	—	5月中旬	6月中旬～10月下旬	他産地のナスの養液栽培では、一般的な仕立て方法である一芽切り戻し栽培に比べて省力的なつるおろし栽培が導入されている事例があることから、その効果について検証する。また、クラウド型の複合環境制御装置の適応性及び生産現場への普及性について検証する。 <供試品種：(穂木)PC筑陽 (台木)カイゼル、TTM-079>	旭川青果物生産出荷協議会
参考1	夏秋ナスのつるおろし栽培における初期摘心調査	新規	—	5月中旬	6月中旬～10月下旬	他産地のナスの養液栽培で導入されているつるおろし栽培では、初期摘心によって同栽培の収量を向上させる方法が提案されていることから、これら栽培方法の違いが収量及び品質に及ぼす影響を明らかにする。 <供試品種：(穂木)PC筑陽 (台木)カイゼル、TTM-079>	
2	ナンバンの養液栽培試験	新規	3月上旬	5月中旬	6月中旬～	市内のナンバン栽培では、連作障害による収量及び品質の低下が課題となっていることから、連作障害の回避に効果的とされる隔離床養液栽培について、栽植密度が収量等に与える影響を調査し、同栽培の導入可能性を検討する。 <供試品種：大長なんばんロングエース>	旭川青果物生産出荷協議会 なんばん部会
3	高温期におけるホウレンソウの品種比較試験	新規	①6月下旬 ②7月中旬	—	①8月上旬 ②8月下旬	市内のホウレンソウ栽培では、近年の温暖化により高温期の収量が低下していることから、耐暑性及び晩抽性を有し、収量性の高い品種を調査選定する。 <供試品種：①5品種、②10品種>	旭川青果物生産出荷協議会 ほうれん草部会
4	高温期におけるサニーレタスの品種比較試験	新規	①5月下旬 ②7月中旬	①6月上旬 ②7月下旬	①7月中旬 ②8月下旬	市内のサニーレタス栽培では、‘晩抽タフレッド’を高温期の基幹品種としているが、近年の温暖化により高温障害や抽苔が生じやすくなっていることから、耐暑性、晩抽性等に優れた新たな品種を調査選定する。 <供試品種：晩抽タフレッドほか5品種>	旭川青果物生産出荷協議会 サニーレタス部会
5	バイオスティミュラント資材効果確認試験	新規	①6月中旬 ②7月上旬	—	①7月中旬 ②8月上旬	バイオスティミュラント資材のうち耐暑性向上に係る効果・効能があるとされるものを供試し、葉菜類の生育状況及び障害軽減効果を検証する。 <供試資材：スキーボン (アクプラント(株))ほか2種類、供試品目：ホウレンソウ、コマツナ>	旭川青果物生産出荷協議会
6	外気導入装置効果確認試験	新規	3月中旬	5月中旬	7月上旬～10月上旬	近年の重要課題であるハウス栽培における高温対策について、ハウス内に外気を取り込むことにより高温時の環境改善を図る簡易的な外気導入装置を供試し、有効性及び留意点等を検証する。 <供試装置：OutsidAir (株誠和アグリカルチャ)、供試品目：トマト(麗月)>	旭川青果物生産出荷協議会
7	サツマイモ苗の増殖実証試験	R5～	—	4月下旬	6月上旬	R8年度は、生育初期に電熱線を用いた簡易的な加温条件で、切り苗を親苗とした増殖を行い、低コストな苗増殖方法の検証する。 <供試品種：シルクスweet®>	旭川青果物生産出荷協議会
8	下水汚泥焼却灰由来肥料の効果検証試験	R7～	—	6月上旬	10月上旬	旭川市下水処理センターでは、汚泥焼却灰を原料とした肥料を試作し、菌体りん酸肥料としての肥料登録を目指している。この取組に連携し、当該肥料を昨年度に続き連用して、サツマイモに対する当該肥料の効果や影響等を調査し、将来的な普及の可能性を検討するための資料を得る。 <供試品種：シルクスweet®>	旭川市水道局 下水処理センター
参考2	下水汚泥焼却灰由来肥料のソバにおける施用効果調査	R7～	6月中旬	—	9月中旬	試験No.8で使用した下水汚泥焼却灰由来肥料について、ソバを対象に昨年度に引き続き連用試験を行い、その施用効果を調査する。	
9	シャインマスカットの栽培試験	R3～	—	— (R3.5.11定植)	10月上旬	当地における‘シャインマスカット’の導入に向けた安定生産技術を確認するため、冬季の天井ビニール常時被覆による凍害防止効果を検証する。あわせて、冬季剪定の時期が発芽及び初期生育に及ぼす影響を明らかにするとともに、これらの管理技術が収量及び果実品質に与える影響を調査する。	J A あさひかわ
10	冬の軟白長ネギ品種比較試験	新規	5月上旬	7月上旬	11月上旬～12月下旬	市内の軟白長ネギ栽培は、主に5月中旬から10月下旬まで出荷する作型が慣行であるが、11月下旬以降も需要が高いことから、加温作型に比べ低コストでの栽培が見込める、冬季無加温作型に適性のある品種の模索及び出荷可能晩限を検証し、当地での栽培特性について検討する。 <供試品種：9品種程度>	旭川青果物生産出荷協議会 ねぎ部会